

## 「温泉文化を無形文化遺産に！」衛藤先生に要望

1月23日、多田理事長は温泉文化をユネスコ無形文化遺産に登録するため、自民党・公明党で発足した議員連盟の発起人である衛藤征士郎元衆議院副議長と面会し、温泉文化を無形文化遺産に登録するよう要望した。

温泉文化の無形文化遺産登録については、昨年12月14日、群馬県の山本一太知事からも多田理事長に対して「業界を挙げて協力をして欲しい」と直接要望があったため、本日改めて衛藤先生に要望を行ったものである。



### 【ユネスコ無形文化遺産登録のための自公議員連盟について】

日本の温泉文化をユネスコの無形文化遺産に登録するための機運を高めようと自民党と公明党の国会議員が議員連盟を設立し、昨年11月11日、初めての会合が開かれた。東京都内で開かれたこの初会合には、細田衆議院議長や赤羽元国土交通大臣などおよそ60人が出席した。

発起人を代表して、自民党の衛藤元衆議院副議長は「温泉は日本に不可欠な文化で、温泉文化を次世代につなげていくことは政治家の使命だ。広く国民の賛同を得ながら登録の早期実現に努めたい」と述べた。

山本群馬県知事も出席し、後継者不足などによって国内の温泉地が減少していることなどを指摘し「温泉の文化的価値を見つめ直し世界に発信することで希望も醸成できる」と訴え、全国の知事とも協力して取り組みを推進する考えを示した。